

平成28年3月30日

中部地方幹線道路協議会

道路管理防災・震災対策検討分科会

南海トラフ巨大地震に備えて

～道路啓開の実効性向上にむけ、「中部版くしの歯作戦」を拡充～

中部地方幹線道路協議会道路管理防災・震災対策検討分科会では、中部地方において、近い将来発生が懸念されている南海トラフを震源とする巨大地震に備え、平成24年3月に道路啓開オペレーション計画「中部版くしの歯作戦」を策定しました。

道路啓開の実効性向上を図るため、平成27年度に以下の取り組みを行いましたので、お知らせします。

<実効性向上の取り組み>

- ① **道路被害状況の収集と共有の迅速化を図る**ため、位置情報が付加されたカメラで撮影した**写真を現地から登録**し、関係機関と共有できる、**くしの歯防災システム（仮称）を構築**
- ② 代表ルートについて、**道路被害を想定**して道路啓開に**必要な資機材を算出**し、**資材置き場・参集場所などを設定**

今後は、各県などの防災計画との調整や民間企業などとの調整、平成27年度に検討したルート以外についても上記②を検討し、**更なる実効性の向上**を目指します。

1. 資料 別紙
 2. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二建政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、長野県庁会見場、静岡市政記者クラブ、浜松市政記者クラブ、沼津記者会、三島記者クラブ、松阪記者クラブ、尾鷲記者クラブ、熊野市政記者会
 3. 問い合わせ先 中部地方整備局 道路部道路管理課長 にしむらえいじ 西村栄司
道路管理課長補佐 あさいようじ 浅井洋二
- TEL : (052) 953-8176 FAX : (052) 953-9208

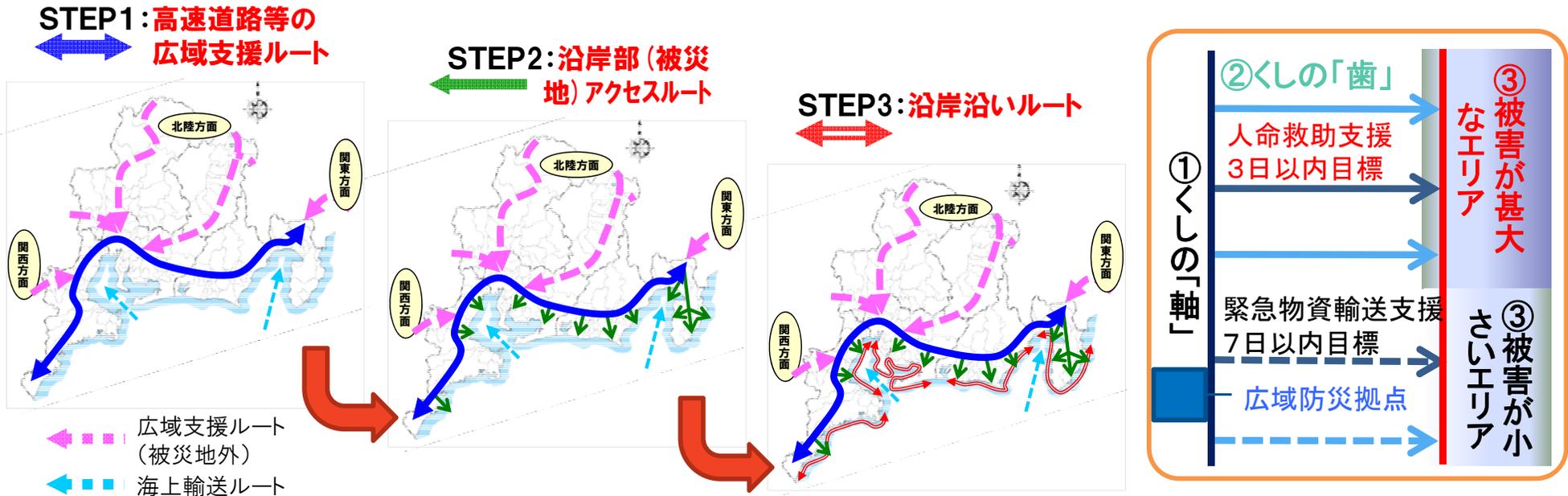
道路の異状を発見したら・・・道路緊急ダイヤル **#9910** (通話料無料・24時間受付)

「中部版 くしの歯作戦」の基本的考え方

道路啓開目標

- 3日以内: 人命救助のための救援・救護ルートを確認 【被害の甚大なエリアを中心】
- 7日以内: 防災拠点等を連絡する緊急物資輸送ルートを確認 【被害地域全域】

人命救助のための救援・救護ルート確保に向けたステップ



実効性向上の取り組み①

- 道路被害状況の収集と共有の迅速化を図るため、位置情報が付加されたカメラで撮影した写真を現地から登録し関係機関と共有できる、くしの歯防災システム(仮称)を構築
- くしの歯防災システム(仮称)を検証する情報伝達訓練を平成28年1月15日に実施

国土交通省・県・政令市

被害情報詳細

緯度: 34.85033417 画像(1点): 

経度: 137.23164367

通行可否:

被害種別:

迂回路:

内容:

UTC: 535PU60183857

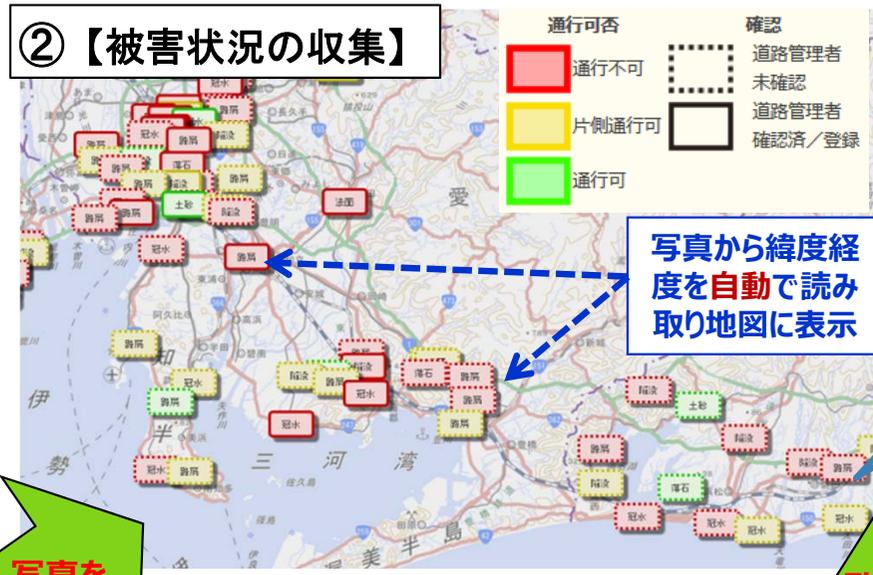
初期登録者:

最終更新者: 名古屋国道事務所

確認:

撮影日: null
入力日: null

②【被害状況の収集】



写真から緯度経度を自動で読み取り地図に表示

①【写真を登録】



くしの歯防災システム(仮称)画面

啓開指示を共有

③【啓開指示】



災害協定業者

実効性向上の取り組み②

道路啓開の実効性を高めるため、道路被害を想定して道路啓開に必要な資機材を算出し、資材置き場・参集場所などを設定

【実行計画検討フロー】

①被害量の想定

- ・瓦礫量
- ・橋梁等の段差箇所
- ・斜面崩壊箇所



②道路啓開に必要な資機材量の算出

- ・必要資機材
- ・人員
- ・日数



③資材置き場、参集場所、拠点事務所の設定

- ・資材置き場
- ・参集場所
- ・拠点事務所[※]
- ・砕石プラントやリース会社の位置を把握



今年度は
14方向
の計画を検討

※拠点事務所：道路啓開の広域的な指揮・調整を行う事務所

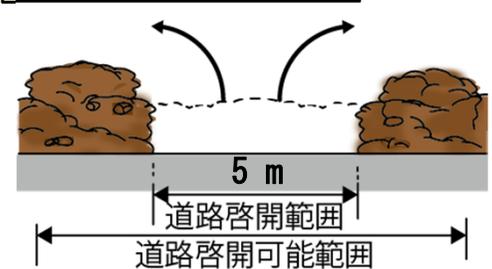
今年度検討した実行計画ルート（14方向）



津波浸水域内の瓦礫除去



道路啓開

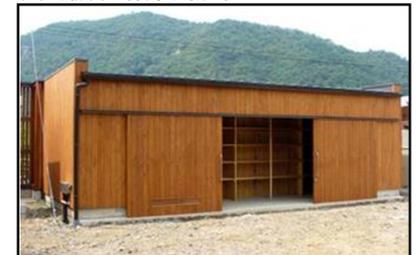


橋梁段差解消



資材置場

◇資機材備蓄倉庫



実効性向上の取り組み② 代表事例



被害想定量	
がれき量	380m ³
橋梁段差	1橋 (2橋台)

必要資機材量	
土のう	110袋
バックホウ	4台
ホイールローダー	2台

凡例	
くしの歯ルート	
—	step 1
—	step 2
—	step 3

最大浸水深 (m)	
 	0.01m以上~0.3m未満
 	0.3m以上~1.0m未満
 	1.0m以上~2.0m未満
 	2.0m以上~3.0m未満
 	3.0m以上~5.0m未満
 	5.0m以上~10m未満
 	10m以上~20m未満
 	20m以上~

平成28年度の取組み

【実効性の向上】

- 平成27年度に検討した実行計画について、ルート毎にタイムラインを作成し、災害協定業者などと調整して、より実効性のある計画を検討。
- 平成27年度に取り組んだルート以外について、道路被害を想定して道路啓開に必要な資機材を算出し、資材置き場・参集場所・指揮調整を行う拠点事務所を設定する実行計画を検討。
- 実行計画の確認と検証を目的とした、関係機関と連携した道路啓開実働連携訓練を実施。
- 道路被害状況の収集と共有の迅速化を図る「くしの歯防災システム」の本格運用。

【「くしの歯作戦」の更なる展開】

- 内陸部の土砂災害に対する道路啓開を検討。
- 航路啓開・排水作業との情報共有方法など、具体的な連携を検討。

【他の連携課題との連携】

- 道路上の災害廃棄物の搬出について検討。

※「中部版 くしの歯作戦」は、

<http://www.cbr.mlit.go.jp/road/kanri-bunkakai/index.htm>

中部地方整備局ホームページに掲載しております。